

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成29年3月23日 (2017.3.23)

【公表番号】特表2017-505386(P2017-505386A)

【公表日】平成29年2月16日 (2017.2.16)

【年通号数】公開・登録公報2017-007

【出願番号】特願2016-539271(P2016-539271)

【国際特許分類】

D 0 6 M 11/77 (2006.01)

F 2 4 F 7/08 (2006.01)

D 0 6 M 11/11 (2006.01)

D 0 6 M 15/37 (2006.01)

D 0 6 M 15/263 (2006.01)

B 0 1 D 53/26 (2006.01)

D 0 6 M 101/32 (2006.01)

【F I】

D 0 6 M 11/77

F 2 4 F 7/08 1 0 1 A

D 0 6 M 11/11

D 0 6 M 15/37

D 0 6 M 15/263

B 0 1 D 53/26 2 3 0

D 0 6 M 101:32

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月17日 (2017.1.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 8】

事実、すなわち本発明の範囲内で、当該の膜 8 は、最終的に排ガス流 2 中に存在するガスのそれぞれの排ガスに対して、それらのガスが供給空気流 1 中に進入できないよう、非透過性である。それに対して、該膜 8 を介して、排ガス流 2 に含まれる湿気を拡散させて、供給空気流 1 を加湿することができる。さらに、フィラー中で合成樹脂バインダー又は例えば、アクリレートのような接着剤を利用することによって、膜 8 を構造化することが可能であり、また、図 2 に拡大して示したような三次元に構成することができる。それによって、膜 8 の表面が全体として増大し、そして、それ故、湿気の移動を最適化することができる。事実、この例において膜 8 は、断面においてジグザグのプロフィルを有している。さらに、均圧化することなく、該膜 8 が、二つの気流 1、2 の間で 2 , 0 0 0 P a 超の圧力差を可能にすることが測定によって示されている。それによって、排ガス流 2 から、供給空気流 1 中へ排ガスが移動して移行する危険性がない。むしろ、当該膜 8 は、記載した湿気の移動にだけ透過性である。